

平成29年度 鳥取県立農業大学校評価システムシート (H29.7.12)

評価基準 (達成度)

- A 100%以上達成
- B 80~99%達成
- C 60~79%達成
- D 40~59%達成
- E 39%以下の達成

学校のミッション	次代の農業を担い、指導的役割を果たす人材の育成・確保	重点目標	学生・研修生の円滑な就農の支援 1個別経営計画作成のための個別指導強化 2農業法人等の求人情報収集と関係機関との連携による自営就農及び雇用就農の支援強化
----------	----------------------------	------	------------------------------------------------------------------------------------

課題番号	課題	評価項目	現状	評価指標	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
1	新規就農者の育成	1 求人・求職者情報の就農支援関係機関との共有による就農の促進  2 IUターン就農者の掘り起こし	1 近年、非農家出身学生が約6割を占めている中、農業法人等からも求人が増えており、雇用就農による就農者が増えている。H28年度の就農者(自営就農、研修後就農及び雇用就農)は70%であった。  2 Uターンをキッカケに就農を目指す、あるいは移住により就農を目指す一般社会人が事前に進路相談できる機会を確保することも必要である。	1 ・1年次農家派遣研修実施率100% ・就農率60%(自営就農、研修後就農及び雇用就農の合計)  2 ・研修生の掘り起こし(東京3回、大阪4回)と受入れ	1 就農支援関係機関との情報(求人、求職、研修)共有を進めるとともに、就農意識と農業の実践感覚醸成のための1年次の農家体験研修を実施する。 ・農業改良普及所等への雇用就農志望学生の情報提供(DB活用) ・農業法人等求人者および求職者(学生・研修生以外の一般へも募集拡大)を交えた雇用就農相談会の開催 ・1年次の農家実習派遣の実施(10月まで)  2 東京・大阪等での就農相談会を通じて就農のための道筋や支援制度の紹介し、就農希望者の掘り起こしを行う。			・1年生の体験研修について、早いうちから将来像を形作るための入口として大事だが、何をどう学ばせるかを考えると3日程度は微妙な日数。研修場所もできれば県外での研修に行かせたい。 ・農業の本質をついた仕事の仕方を学ぶ場として、目的の説明が必要。 ・専攻分野と異なる進路に進むことが決まった場合、進路先に沿ったカリキュラム変更ができないか。	
2	学生の確保	1 農業高校との連携による学生確保	1 入学生数は平成23年度以降、定員割れが続いている。(H25-29年度の入学者数:25、23、23、21、22名)	1 学生入学者数定員30名確保	1 オープンキャンパス(4回)、農高生対象の就農イメージ相談会の開催、農高との部門別指導職員交流等により就農に向けた農大進学を動機付ける。 ・農業高校教員の内地留学研修の受入れによる人的交流を通し、農大進学を動機付けを図ると共に農大指導職員教育力向上を図る。 ・農高生の職業観の醸成と農業分野への進路に繋げるため、食プロ育成講座受講受入れ(3校から51名が受講)、長期インターンシップ受入れ先の選定支援などを行う。				
3	学生の営農技術向上	1 学生個々の状況に応じた個別指導の充実  2 計算能力を含めた基礎学力の向上  3 幅広い農業知識の習得と販売実習による経営感覚の向上  4 地域で頑張っている卒業生等を訪問して自己の就農意欲を高める  5 GAPに関する講義の導入及びH30認証取得に向けた準備	【養成課程共通】 1 学生の就農意欲や体力、学力は千差万別で、専攻実習での技術習得には個々の能力・スピードに応じたきめ細やかな指導が必要である。  2 営農技術のなかには、圃場面積の計算、施肥量の決定や農薬の希釈など、計算能力が求められるが正確に計算できる学生が少ない。  3 多様化する農業形態のなかで営農するためには、コースを枠を超えて幅広い知識と技術を身につける必要がある。またモノを作るだけでなく、「売る」ことも意識させることで経営感覚をもった農業者を育成する必要がある。  4 非農家出身の学生割合が高くなってきていることから、地域で頑張っている農業者等を訪問し、就農・農業法人就職等に向けた意識付けが必要である。  5 近年食品への安全意識の高まっており、生産工程を管理する手法(GAP)に関する教育が必要となっている。	1 ・理解度アンケートの実施(7月、1月 2回)とそれを基にした個別指導(随時)  2 ・学力補完補講座(20回) ・学力テスト(随時) ・専攻実習時の実戦力評価(随時)  3 ・校内技術競技実施(2回) ・農大市実施(校内3回、校外3回) ・修農祭での販売(1回)  4 地域で頑張っている卒業生等を訪問して就農意欲を高める  5 ・先進事例調査の実施(4事例)	1 各コース毎に「理解度アンケート」を実施し、学生と職員の共通認識を図り、学生の苦手分野を克服、作業時間を含むコスト意識の醸成するための指標として活用する。  2 1年生を対象とし基礎学力(計算、単位など)の把握と学力補完のための補講を行う。また、1・2年生とも専攻実習の中で、実践的に肥料・農薬計算を実施する。  3 「校内技術競技」を行い、各コースから出題される問題(筆記・実物鑑定)を解きその点数を競う。また校内外で「農大市」を実施し、商品PR方法を学び、対面販売を行うことで消費者ニーズを把握する。  4 農家・卒業生等の訪問・視察(各コース2回以上)  5 1年生の講義の中でGAPに関する内容を盛り込むほか、他県農業大学校での先進事例調査を実施する。			・ものを生産するだけでなく、売ることを意識させることは経営感覚を持った農業者の育成に大事なこと。商品としての扱い方、工夫、こだわりなど、工夫して販売している農業者をゲストティーチャーとして講演を行ってはどうか。	

<p>【果樹】</p> <p>1 ほ場管理に係る主体性、責任感の醸成</p> <p>2 新技術、新品種に係る技術習得</p>	<p>永年作物である果樹の栽培技術を2年間の限られた期間で習得する事は困難である。よって、技術習得を図るためには、学生が主体的に責任感を持ってほ場管理を行わせる必要がある。</p> <p>一方、これまでに新技術、新品種を積極的に導入し、生産体制が整いつつある。これらを活用して生産現場の現状や将来的ニーズに応じた知識・技術の習得を図る</p>	<p>1 【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業説明の評価：学習チェックシートの活用</li> <li>プロジェクト中間検討会の実施（3回程度/年）</li> </ul> <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナシを中心に基礎知識習得のための小テストの実施。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新品種研修会、ジョイト仕立て研修会への参加及び先進農家視察等の実施4回程度/年</li> </ul>	<p>1 「2年次」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学生の担当樹種を決定する。各樹種の管理作業を行う際は目的、方法等を担当の学生が他の学生に説明する。</li> <li>プロジェクト学習の課題設定、進行管理等を徹底させる。</li> </ul> <p>「1年次」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1人に1樹種「20世紀の担当樹を割り当て、年間を通して栽培管理を行わせる。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新技術であるナシの「ジョイト仕立て」の栽培管理に対して、全学生が関わりをもつために担当を決定し、技術習得、技術向上を目指す。</li> </ul>			
<p>【野菜】</p> <p>1 栽培基礎技術の向上とプロジェクト学習による実践力の養成</p> <p>2 農業基礎知識の習得支援</p> <p>3 環境保全型農業の実践</p>	<p>コースの学生12名のうち、農業高校以外の出身者が7名(84%)、また、非農家の学生が6名(50%)を占めているため、農業に関する基礎知識及び技術の習得支援を進めている。</p> <p>将来的な独立就農の意向を現段階で5名(42%)の学生が示しており、実習のレベルを個別的就農目的に合わせて充実させることが重要である。</p> <p>環境負荷を軽減する農業への関心を示す学生もあり、これらのニーズに対応した実習を行う必要がある。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業日誌の記帳及び、各月の月間計画書を作成させ計画的な作業進行を徹底する。</li> <li>理解度・習熟レベルアンケートの総合評価点：50点以上（1年生）、70点以上（2年生）</li> <li>プロジェクト学習の達成度：総合評価点80点以上</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営計画書作成：100%</li> <li>日商簿記3級：合格率60%</li> </ul> <p>3 【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トレーサビリティ（栽培管理履歴）記帳：全品目</li> <li>特裁認証栽培の実施：2品目</li> </ul>	<p>1 1年生は露地およびハウスの圃場で、野菜の栽培実習を共同で行い、農業基礎技術の習得を図る。2年生はプロジェクト研究において、各自の興味や進路事情に合わせた課題設定を行い、主としてハウス1棟を1人で管理し、課題解決の実践力を養成する、併せて、1年生の栽培実習の補佐を行うことで指導能力の醸成を図る。</p> <p>2 本県の主要品目である、スイカ、白ネギ、ブロッコリーを主として作型を組み合わせる。また、同一品目を複数回栽培することで、知識及び栽培技術の習熟を図る。就農を想定し経営計画書を作成する。</p> <p>3 有機栽培実習と、鳥取県特別農産物の認証を受けた栽培を実施する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>作業日誌の記帳は、就農してから何か問題が見つかった時に見返すことができ、大切なこと。毎日書かせ、先生のコメントも入れて欲しい。</li> <li>2年生が1年生を指導することは重要。就農、就職後に下のものに作業指示できるかどうかは大変重要な能力である。</li> <li>有機栽培については、安易に取り組むことが無いように、引き続き事前にリスクを十分説明していただきたい。</li> </ul>
<p>【花き】</p> <p>1 栽培基礎技術の向上と花の売れる時期を旨とした栽培の徹底</p> <p>2 花き品評会への参加、県内先進農家への視察</p> <p>3 「花育」活動への取り組み</p>	<p>基礎技術の習得と新技術や本県に適する新品目の導入を積極的に行い、栽培技術の向上を図る必要がある。</p> <p>花は嗜好品であることから、必ずしも生活に必要なものではないが、身近に花がある生活をするには、様々な人に花の良さを理解してもらう必要がある。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業の確認と作業日誌の記載の徹底</li> <li>プロジェクト活動の進行管理</li> <li>販売方法の改善・提案</li> </ul> <p>・とっとり花回廊での研修</p> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>花き品評会への出品参加 1学生あたり1点以上</li> <li>県内先進地視察2回</li> <li>県内農家研修1回/人</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「花育」活動 1回</li> </ul>	<p>1 学生の担当品目を決めて栽培管理を行い、基礎技術を習得させるとともに、消費者が求める時期（お盆、彼岸、年末）に出荷することも重要であることから、出荷時期を意識しながら栽培管理を行う。また、単に出荷物を作るのではなく、色の併せ方や使い方など花束、寄せ植えなど体験させながら意識向上を図る。</p> <p>2 10月に開催されるイベント「花のまつり」の中で、鳥取県花き品評会が開催されるが、学生が栽培したものを出品する。また、県内生産者の高い技術に接することで、意識向上を図る。</p> <p>3 新たな需要拡大として、「花育」活動を行うことによって、自身の花に対する理解を深め、また、他の人に花を良さを理解してもらうにはどのようにすれば良いか体験をする。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>とっとり花回廊の研修では種類や特性を知る機会にして欲しい。また、販売に関して地元の花屋の話聞く機会を設けてはどうか。</li> <li>品評会への参加は是非続けて欲しい。</li> <li>花育ではブークやコサージュづくりにも挑戦して欲しい（入学式や卒業式に合わせて）。</li> </ul>

<p>【作物】</p> <p>1 農業機械操作技術の習得</p> <p>2 有機栽培技術の習得</p> <p>3 白ネギ、ブロッコリーの栽培技術習得</p>	<p>1 トラクター、田植機、コンバイン等の機械操作は未経験の学生がほとんどである。</p> <p>2 有機栽培に漠然とした興味を持って入学する学生が多いが、具体的な栽培管理は未経験である。</p> <p>3 法人就農を目指す学生も多く、水田農業の複合経営で取り入れられることが多い白ネギ（秋冬）やブロッコリー（秋冬）の栽培技術の習得も必要。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解度アンケート（よくできる、できる、もう少し、できないの4指標）でのトラクター、田植機、コンバインの操作に関する各評価項目で「できる」以上の評価が80%以上。</li> <li>耕耘技術競技の実施50分/10a以内が50%以上</li> </ul> <p>【参考】前年平均時間49分41秒</p> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解度アンケートでの有機栽培技術に関する項目で「できる」以上の評価が80%以上。</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解度アンケートでの白ネギ、ブロッコリーの栽培に関する評価項目で「できる」以上の評価が80%以上。</li> </ul>	<p>1 農大の管理ほ場面積を維持しつつ、近隣農家から機械作業実習ほ場の提供を受け、水田での作業面積を確保する。また、トラクターでの耕耘技術競技を実施し、技能向上を図る。なお、座学での学習時間も確保するため、学生数に応じた実習量とする。</p> <p>2 有機栽培技術導入ほ場を設置し、栽培技術の習得及びメリット、デメリットの理解を図る。</p> <p>3 白ネギ（秋冬）、ブロッコリー（秋冬）を栽培</p>			
<p>【畜産】</p> <p>1 家畜（牛）の繁殖、生理に関する基本的知識を踏まえた管理技術の習得</p> <p>2 家畜管理用機械の操作技術の習得、飼料用作物関係機械の操作技術の習得</p>	<p>1 畜産コースにおいて、学生13名のうち、農業高校以外の出身者が5名（38%）、また非農家出身学生が8名（61%）と多いため、卒業後即自営畜産経営は難しい。そこで、将来的自立も見据えながら畜産関連業種、農業法人等への就農に力を入れている。</p> <p>2 畜産関連業種又は農業法人が本学学生に求める人材とは、家畜（牛）の基本的管理技術及び畜産の管理用機械（ホイローラー等）、飼料用作物関係機械の操作技術を習得した人材である。</p> <p>3 牛の繋養、誘導技術の習得</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解度アンケートにより、牛の発情行動、健康状態のチェックができる以上の評価。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解度アンケートでコンブリートミキサー、ホイローラー、搾乳機械の操作が日常的にできる。マニユアスプレッター、ロールラッピングマシン、コーンハーベスター等の操作が1人でできる。</li> <li>大型特殊・牽引免許以外の免許（小型車両系建設機械、フォークリフト、アーク溶接等）取得者割合50%</li> </ul> <p>3 各共進会への出品頭数（中部酪農祭2頭以上、県共1頭以上、全国和牛能力共進会1頭以上）</p>	<p>1 牛舎及び放牧場、運動場等における牛の発情行動及び便の状態などを継続観察させ、健康と異常とをチェックできる目を養い、健康に管理する方法を習得する。</p> <p>2 ①飼料給与・調製、②牛舎内の糞及び敷料の搬出・運搬、③糞乾燥機械の操作④搾乳作業等日々の継続した飼養管理の継続実施を図る。また、⑤飼料用作物関係機械（堆肥及び肥料散布～収穫・調製作業）については体験実習を実施する。</p> <p>3 乳牛および和牛（全国和牛能力共進会（宮城全共）含む）の共進会に参加を目指して飼養管理技術の習熟（業界の求める人材育成）を図る。</p>			<p>・クラスター事業によって大規模牧場が稼働予定の中、大規模牧場で働ける人材づくりの考え方を整理し、学生への慎重かつ十分な指導、アドバイス教育を望む。</p>

		<p>【農業機械】</p> <p>1 大型特殊免許とけん引免許の取得</p> <p>2 農業機械の操作技術の向上</p> <p>3 農作業安全意識の向上</p>	<p>1 就農や農業法人へ就職を目指す学生にとっては、トラクター、コンバイン等の大型農業機械の運転操作を行う上で大型特殊免許の取得が必要。また水稲・畜産関係へ就農や農業法人へ就職を希望する学生は、けん引免許の取得も必要となっている。</p> <p>①大型特殊免許合格率 (H27:100%、H28:100%) ②けん引免許合格率 (H27:73%、H28:84%)</p> <p>2 卒業後に就農又は農業法人へ就職する学生は、刈払機やロータリー耕耘の運転操作は必須であるが、操作の苦手な学生も見受けられるため、当該学生のレベルアップが必要。</p> <p>3 農業機械の安全な操作を行うには日頃から農作業安全を意識しながら作業に当たることが必要のため、学生の安全意識を高めるような取り組みが必要。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の大型特殊免許合格率100%</li> <li>1年生の牽引免許合格率90%</li> </ul> <p>2 確認試験合格点達成率 草刈り80%、耕耘80%</p> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農作業安全授業の実施3回/8回</li> <li>校内ハザードマップの作成(12月)</li> </ul>	<p>1 試験日までの練習期間が限られているため、練習日を計画的に設定する。(1日当たりの練習は、極力少人数で行い1人当たりの練習回数(乗車回数)を十分確保する)</p> <p>①大型特殊免許 4人/日、練習回数(4回~7回/人) 乗車回数(16回~28回/人)</p> <p>②けん引免許 5人/日、練習回数(8回/人) 乗車回数(32回/人)</p> <p>2 農業機械の取り扱いに不慣れな学生を指導対象学生とし農業現場で使用頻度の高い、刈払機及びロータリー耕耘について、補充的に追加実習を行う。(指導対象学生は各コース担任と相談の上決定)</p> <p>○刈払機(10名程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点指導期間(7月~11月)、実習(草刈り)5回/人</li> <li>確認試験(実技)、習熟度アンケート</li> </ul> <p>○ロータリー(8名程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点指導期間(7月~11月)、実習(耕耘)5回/人</li> <li>確認試験(実技)、習熟度アンケート</li> </ul> <p>3 授業を一部活用し、農作業安全の授業を設定する。また学生の事故防止に参考となるような啓発資料を作成する。</p>				
4	社会情勢に即応した実践教育の実施	<p>1 実用性の高いプロジェクト成果の確保</p> <p>2 資格・免許取得</p> <p>3 地域社会活動への参加</p>	<p>1 農業現場での実用技術の習得並びに課題解決手法を習得する目的でプロジェクト活動(卒論)を実施している。</p> <p>平成28年度プロジェクト成果の果樹1件、野菜2件の成果を農業改良普及所果樹特技および野菜・花き特技研修会で発表した。</p> <p>2 卒業後の就農(自営、雇用等)に即応するため、大型特殊・牽引免許の他、様々な資格・免許取得を推奨し、取得支援を行っている。</p> <p>平成28年度は学生42名中、大型特殊・牽引免許以外の資格・免許8件を延べ32名が取得し、日本農業技術検定2級、3級についてそれぞれ5名、7名が合格した。</p> <p>3 1,2年生ともに履修内容に地域貢献活動(ボランティア)盛りこみ、地域社会の一員としての自覚の醸成を図っている。</p> <p>平成28年度は42名全員が2回以上のボランティアに参加した。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各特技普及員研修会、果樹研究同志会、農協生産部等校外での発表</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大型特殊・牽引免許以外の資格・免許取得者割合50%</li> <li>日本農業技術検定合格者割合60%</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア実施率100%(一人年2回)</li> <li>コミュニケーション能力向上講座(2回)</li> </ul>	<p>1 課題解決手法の習得を意識するとともに、生産現場のニーズに答えられ、学生が就農後に活用できる成果を確保する。</p> <p>2 資格・免許取得者数、取得資格・免許数を確保する。</p> <p>3 地域貢献に対する意識啓発とボランティア活動への積極的参加を促す。また、コミュニケーション能力向上に向けた講座を設ける。</p>				<p>・コミュニケーションは農業においても大事な事。付け足しではなく本当に大事な事であることを教えて欲しい。</p>

5	多様な研修制度の運用と研修生のニーズに即した就農支援の実施	<p>1 研修生に対する的確な進路指導の実施</p> <p>2 関係機関との連携による進路調整</p> <p>3 研修実施判断指標の運用</p>	<p>1 社会人向け研修制度として運営している各種研修制度の趣旨はそれぞれ異なり、研修生の受講目的も様々である。就農実現に向けては、制度ごとに研修生のめざす目標を踏まえつつ、個々の背景やレベルに即した指導及びアドバイス、研修進捗状況をおさえながらタイムリーに関係機関との調整を実施していくことが極めて重要である。</p> <p>2 アグリチャレンジ科は、農業に関する基礎訓練として定着しつつあり、各機関の就農相談においても、農業未経験者に第一に促す研修として認知が得られたところ。今後は、一方的な研修生輩出ではなく、雇用拡大により経営発展を目指す経営体の育成と一体的な制度運用を意識していくことが重要であり、市町村、普及所、JA等担い手育成関係機関との意識共有のもと、研修生の進路調整も進めていく必要がある。</p> <p>3 先進農家実践研修にあたっては、就農予定地域での生産部等を主体とした受入体制構築が必須であるが、その調整には多大な時間と労力を要している。これまでに5市町（鳥取市、八頭町、湯梨浜町、北栄町、琴浦町）で8件の研修を実施してきたが、研修実施に向けた調整をどう進めていくかのイメージがしにくいいためか、実施市町村が限られているのが実状。</p>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリチャレンジ研修生の就農率：70%</li> <li>・先進農家実践研修生・スキルアップ研修生のうち自身の経営計画作成率（修了時）：80%</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携による就職先選定の実施</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「実施判断に係る評価表」の運用</li> </ul>	<p>1 各研修において、研修開始時・終了時のみならず、研修期間中の個別面談等を複数回実施しながら、各研修生に適した進路・就農方針に関するアドバイス、必要な関係機関との調整を実施する。</p> <p>2 雇用就農意向の研修生の就職に向けて、研修調整員の活動を通じて、研修生情報をはじめ、雇用可能な経営力を有する経営体情報について関係機関と共有することに一層努める。</p> <p>3 先進農家実践研修について、どのような視点をもって調整を進めていくかの指標を作成し、各案件ごとに関係機関とともに実施判断を行っていくこととする。</p>			<p>・パイプハウスの組立て、解体ができることはコスト低減に重要なこと。しかし、パイプの再利用にあたっては腐食などの見極めができ、また中古ハウスの解体・組立てには多くの時間・労力を要し、それなりの経費が発生することも指導する必要がある。</p>
---	-------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------